第１　提出書類作成上の注意事項

１　様式には、次の３種類がある。
（１）「統 一 様 式」 都関係局で統一されている様式
（２）「局独自様式」 水道局が独自に指定する様式
（３）「その他様式」 建設業法等の関係法令や厚生労働省等の関係省庁が定める様式

２　各様式のうち、黒色で印刷された標題、項目等については、様式に基づき作成すること。
　なお、工事事務支援システムで帳票を作成した場合は、文字配列等のレイアウトが若干異なる部分があるので、その場合には、適宜修正等を行うこと。

３　各様式のうち、朱色で印刷された部分は記載例であり、契約書、各工事の内容及び提出書類の趣旨に合わせて記載すること。

４　様式欄外の注意書きには、次の２種類がある。
（１）黒色で「注」と記載しているものは、都関係局で統一されている注意事項である。
　　この「注」については、様式の一部のため、原則として省略不可とする。
（２）朱色で「（注）」と記載しているものは、水道局独自の注意事項である。この「（注）」については、様式の一部ではないため、省略可能とする。

５　提出先名の記載
（１）発注者とは、次の者をいう。
　ア　局長名で契約したものについては、「局長名」とする。
　イ　事業部（所）長名で契約したものについては、「事業部（所）長名」とする。
（２）監督員とは、「監督員通知書」で通知された次の者をいう。
　ア　総括監督員
　イ　副総括監督員
　ウ　監督員

６　請求・申請・届出・通知・報告・協議者名の記載
　現場代理人とは、「現場代理人及び主任技術者等通知書」で通知のあった者をいう。

７　提出書類（届出印を押印して提出する書類のみ）が２枚以上にわたる場合は、とじ目又は継ぎ目に届出印を両方にかけて押すこと。
　また、袋とじした場合は、継ぎ目に届出印を押すこと。

８　提出書類の記載を訂正するときは、誤記の部分を二本の線で消して、その右側又は上部に正しい記載をするとともに、当該箇所に提出者印（届出印又は現場代理人印）を押すこと。
　あるいは、上記による訂正後、欄外に訂正の表示（何字抹消、何字挿入）を明記して提出者印（届出印又は現場代理人印）を押すこと。

９　工事事務支援システムによる書類作成上の留意事項
　該当項目を「○」で囲む様式は、必要項目を入力後、出力された帳票に「○」を記入すること。

１０　各様式のうち、印　には届出印を押すこと。
　また、印　には当局公印を押すこと。

１１　着手指定工事において、着手指定日以前に提出する書類には契約書の工期「着手指定の日から○○日間」と記入し、着手指定日以降に提出する書類には、履行期限（完

成予定日）を記入すること。

１２ 統一様式右上の破線欄は、決裁欄のスペースとして使用すること。

１３ 次の書類については、提示書類（提出の必要なし）のため、任意に整理・保管すること。ただし、監督員から請求があった場合は、直ちに提示すること。

提示書類	備　　考
ディーゼル車に関する車検証･証明書等の写し	配水管工事標準仕様書 1.1.14
安全訓練、安全教育等の実施状況 （計画は施工計画書に記載して提出）	配水管工事標準仕様書 1.4.1
マニフェスト（原本） （集計表は提出）	配水管工事標準仕様書 1.3.9

１４　次の書類については、局様式ではないため記載例を掲載していないが、それぞれ関係機関に確認の上、必要な場合は提出すること。

提出書類	備　　考
施工体制台帳の写し （下請負金額 3000 万円以上の場合は必須）	配水管工事標準仕様書 1.3.6 （国土交通省ＨＰ等参照）
施工体系図 （上記、同様）	〃
再生資源利用計画(実績)書 再生資源利用促進計画(実績)書 （東京都建設リサイクルガイドラインの定めによる。）	配水管工事標準仕様書 1.3.9 （東京都建設リサイクルガイドライン参照）
公共事業施行通知書の写し又は 公共事業遵守証明書 （日雇労働者吸収要綱を適用する工事）	配水管工事標準仕様書 1.1.13 （公共職業安定所又は(一財)城北・福祉センター参照）
「(一財)日本建設情報総合センター」発行の登録内容確認書の写し （請負金額が 500 万円以上の場合）	配水管工事標準仕様書 1.3.7 （工事実績情報センター（コリンズ））

第２　工事完成図

１　適　用

（１）この要領は、配水管及び附属構造物を新設又は撤去する工事の受注者が、当局に提出する工事完成図についての基準を定める。

（２）作図一般、記号、線の一般的用法その他この要領に定めないものは、JIS A0101(土木製図通則)、JIS Z 8310から18まで(製図総則ほか)、土木学会「土木製図基準」その他関係規格、規定による。

（３）この要領は、完成図をマイクロフィルムとして作成保管することを前提に規定する。

２　完成図の提出

（１）完成図の原図と複写図面を次のとおり当局に提出すること。

ア 折りたたまないもの　　２ 部

イ １部分着色して折りたたんだ複写図面　１０ 部

（着色については、７の(９)を参照）

（２）監督員が指示した場合は、完成図をマイクロフイルム（アパッチャーカード式）で提出すること。

３　図面の大きさ及び紙質

（１）図面の大きさは、図面紙の仕上寸法でJIS P 0138(紙加工仕上寸法)のうち、Ａ１、Ａ２及びＡ３の３種類とする。（表－１、図－１参照）

（２）原図の紙質は、良質、つや消しトレーシングペーパー(50g/㎡から75g/㎡まで)とする。

（３）第２原図の作成は監督員に確認すること。作成する場合、用紙はつや消し白色トレーシングペーパーで、50g/㎡から75g/㎡までのものを使用すること。

（４）路線平面図、縦断面図等規定の大きさで作図できない場合は、Ａ１判に分割して作成し、その接続表示を明確にすること。

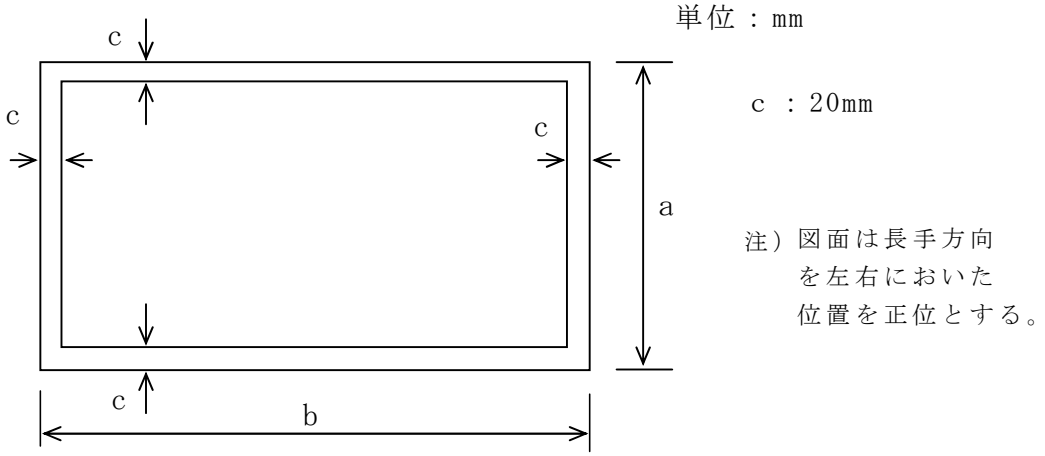
（５）同一工事で工事場所が２か所以上を含むものは、それぞれ１か所ごとに一葉ずつ分けて作成すること。

表－１　図面の大きさ

単位：mm

大きさの呼び方	Ａ１	Ａ２	Ａ３
a　×　b	５９４×８４１	４２０×５９４	２９７×４２０

図－１　図面の大きさ及び輪郭



（４）平面図及び工事完成数量表（表－４）の管種の表示は次によること。

ア　鋳鉄管

ａ　直管及び異形管類

遠心力高級鋳鉄管　　（メカニカルＡ形）~（ＦＣ.Ａ）
遠心力高級鋳鉄管　　（ソケット）~（ＦＣ.Ｃ）
遠心力ダクタイル鋳鉄管（メカニカルＡ型）~（ＦＣＤ.Ａ）
〃　　（タイトン形）~（ＦＣＤ.Ｔ）
〃　　（メカニカルＫ形）~（ＦＣＤ.Ｋ）
〃　　（Ｓ形）~（ＦＣＤ.Ｓ）
〃　　（ＫＦ形）~（ＦＣＤ.ＫＦ）
〃　　（ＮＳ形）~（ＦＣＤ.ＮＳ）
〃　　（ＳⅡ形）~（ＦＣＤ.ＳⅡ）
〃　　（ＧＸ形）~（ＦＣＤ.ＧＸ）
遠心力ダクタイル鋳鉄内面継手管　　~（ＦＣＤ.Ｕ）
〃　　（シールド用）~（ＦＣＤ.ＵＳ､Ｕ）
〃　　（抜出防止用）~（ＦＣＤ.ＵＦ）
遠心力ダクタイル鋳鉄推進用内面継手管　~（ＦＣＤ.Ｕ推進）

なお、ダクタイル鋳鉄管内面エポキシ樹脂粉体塗装については、継ぎ手表示部分を四角で囲むこと。ただし、ＧＸ形は除く。(例ＦＣＤ．ＮＳ)

ｂ　その他

特殊押輪（ＦＣＤ.特押）
ビクトリック継手（ＶＩＣ）

イ　鋼管（ＳＰ）

材質（ＳＳ400、ＳＴＰＧ、ＳＧＰ等）及び管厚を記入すること。
また、鎧装、鋼管推進についてはその別を記入すること。

ビクトリック継手（ＳＰ.ＶＩＣ）
クローザー継手　（ＳＰ.Ｃ）
テレスコピック　（ＳＰ.Ｔ）

ウ　ステンレス鋼管（ＳＳＰ）

エ　石綿セメント管（ＡＰ）

継手は、石綿又は鋳鉄の別、管は鋼板入の別を記入すること。

オ　塩化ビニル管（ＶＰ）

継手は、ＴＳ．ドレッサーの別を記入すること。

カ　鉛管（ＬＰ）

キ　遠心力鉄筋コンクリート管（ＲＣＰ）

さや管、排水管及び通信ケーブルの別を記入すること。

ク　プレストレストコンクリート管（ＰＣＰ）

（５）管体又は構造物塗装した場合は、平面図にその仕様（製造会社名、塗料名、塗膜厚、色等）を記入すること。

（６）塗覆装管は、平面図にその仕様を記入すること。

（７）伸縮可とう管は、平面図にその仕様（製造会社名、形式名、許容偏心量、許容伸縮量及び設置年月日）及び設置状況図を記入作成すること。

なお、埋設される伸縮可撓管の設置状況図は、基点を伸縮可とう管の中心としたオフセット図とすること。

また、設置後露出する伸縮可とう管（水管橋等）については、基点、引照点を明確にして、図－６の寸法を必ず記入すること。

表－３　表示記号

(1) 管　　種

名　　称			記　号
管　　径（mm）			Φ
材質		高級鋳鉄 ﾀﾞｸﾀｲﾙ鋳鉄	ＦＣ ＦＣＤ
		ﾋﾞﾆﾙ管	ＶＰ
		石綿管	ＡＰ
		鋼　管	ＳＰ
		ｽﾃﾝﾚｽ管	ＳＳＰ
継手	柔継手	Ａ　形	A
		Ｋ　形	K
		Ｔ　形	T
		Ｕ　形	U
	剛継手	ＫＦ　形	KF
		UF　形	UF
		ﾌﾗﾝｼﾞ	F
	耐震継手	Ｓ　形	S
		ＳⅡ　形	SII
		ＵＳ　形	US
		ＮＳ　形	NS
		ＧＸ　形	GX
その他		特殊押輪	
		抜出防止金具2号	
		ﾗｲﾅ（NS形）	
		ﾗｲﾅ（GX形）	
		G-Link（GX形）	G
		P-Link（GX形）	

名　　称		記　号
その他	塗　　装	Ｍ（ﾓﾙﾀﾙ）
		ＣＥ（ｺｰﾙﾀｰﾙｴﾅﾒﾙ）
		ＡＳ（ｱｽﾌｧﾙﾄ）
		ＴＥ（ﾀｰﾙｴﾎﾟｷｼ）
		ＰＯ（ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ）

(2) 鋳鉄異形管記号

曲　　管	
三受十字管	
二受十字管	
ﾌﾗﾝｼﾞ付き Ｔ字管	
片落管	受ｻｼ　ｻｼ受
仕切弁副管	1号，A2号，B1号，B2号
短　　管	1号　2号　ﾌﾗﾝｼﾞ
排水Ｔ字管	
継ぎ輪	
乙字管	
栓	

表－４　工事完成数量表

（配水小管の場合）

工 事 完 成 数 量 表

名　　称	種 別	形　　状	単 位	数　　量	備　　考
配 水 小 管	新 設	φ３５０	m	７５０．０	ＦＣＤ．ＮＳ
配 水 小 管	新 設	φ２５０	m	６２０．０	ＦＣＤ．ＧＸ
配 水 小 管	撤 去	φ３５０	m	７５０．０	ＦＣＡ　Ｓ３８
制　　水　　弁	新 設	φ３５０	箇 所	７	ＮＳ形
制　　水　　弁	撤 去	φ３５０	箇 所	７	
給　　水　　弁	新 設	φ７５	箇 所	１	ＧＸ形
単 口 消 火 栓	新 設	φ７５	箇 所	７	
40㎜	15㎜	30㎜	10㎜	35㎜	70㎜

7㎜ 7㎜ 7㎜

（注）工事施工箇所が複数の場合は、数量欄を工事施工箇所ごとに分けて記載し合計する。（巻末完成図例参照）

（配水本管の場合）

工 事 完 成 数 量 表

工　　種	種 別	形　　状	単　位	数　　量	備　　考
１ 管路工（開削）配水本管					
配水本管	新 設	φ５００	m	７４１．５	ＦＣＤ．ＮＳ
配水本管	新 設	φ５００	m	３８．５	ＳＰ
配水本管	撤 去	φ５００	m	７８０．０	ＦＣＣ　Ｓ１２
２　附属物設置工					
制水弁室設置	新 設	立形500㎜	箇　所	１	
空気弁室設置	新 設	急速○○㎜	箇　所	５	玉押器対応型
排水室設備工	新 設				
排水室築造工	新 設	内径○○㎜	箇　所	１	排水弁○○㎜○箇所
排水管	新 設	○○㎜	m	７．５	ＦＣＤ．Ｋ
吐出管	新 設	○○㎜	m	１３．５	ＶＵ
50㎜	15㎜	30㎜	15㎜	35㎜	55㎜

7㎜ 7㎜ 7㎜

表－５　道路等占用許可一覧表

道 路 等 占 用 許 可 一 覧 表

路　線　名 （通　称）	管 理 者 名	申　請　番　号 申 請 年 月 日	許　可　番　号 許 可 年 月 日	備　　考
主要都道 321 号線 （○○○街道）	○○建設事務所	23 水建工第 94 号 平成 23 年 1 月 31 日	23○建管水第 22 号 平成 23 年 3 月 8 日	
区道１２号線	○ ○ 区	23 水建工第 92 号 平成 23 年 2 月 5 日	23○○○第 52 号 平成 23 年 3 月 1 日	
○ ○ ○ 線	○ ○ 鉄 道 （株）	23 水建工第 93 号 平成 23 年 1 月 30 日	○○○第 112 号 平成 23 年 3 月 4 日	
神　田　川	○○建設事務所	23 水建工第 95 号 平成 23 年 1 月 29 日	23○建管水第 23 号 平成 23 年 3 月 11 日	
45㎜	45㎜	40㎜	40㎜	30㎜

14㎜ 14㎜ 14㎜

第５　継手チェックシート

次にない継ぎ手形式についても、「日本ダクタイル鉄管協会」発行の接合要領書を参考に作成すること。

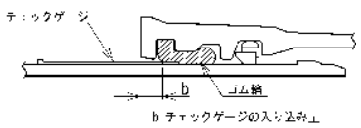
１　ＧＸ形継手チェックシート
２　ＮＳ形継手チェックシート
３　ＳⅡ形継手チェックシート
４　Ｓ 形継手チェックシート
５　ＫＦ形継手チェックシート
６　ＮＳ形継手溝切チェックシート
７　ＳⅡ形継手溝切チェックシート
８　Ｓ 形継手溝切チェックシート
９　ＫＦ形継手溝切チェックシート

チェックシート

GX形 直管・P-Link チェックシート（呼び径75～250）

工事件名			
呼び径		図面№	

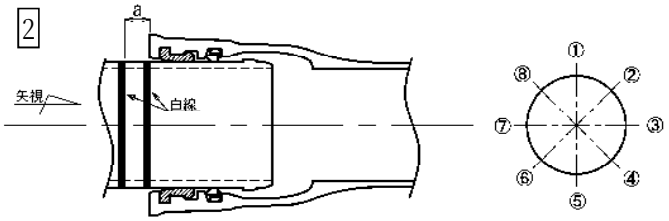
1 直管



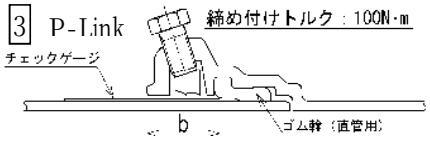
b寸法の合格範囲

呼び径	合格範囲(mm)
75	8～18
100	8～18
150	11～21
200	11～21
250	11～21

2



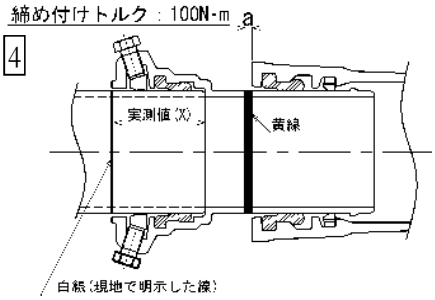
3 P-Link 締め付けトルク：100N･m



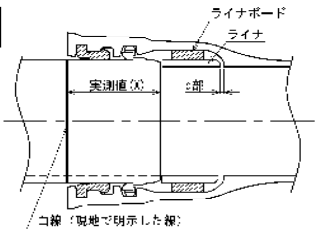
b寸法の合格範

呼び径	合格範囲(mm)
75	54～63
100	57～66
150	57～66
200	63～72
250	63～72

4 締め付けトルク：100N･m



5



継手番号								—
略図／ﾗｲﾅ								
挿し口突部の有無								—
清掃								—
滑剤								—
挿し口の挿入量の明示								4 5
受口溝（ﾛｯｸﾘﾝｸﾞ）の確認								—
爪、押しボルトの確認(P-Link)								—
受口端面～ゴム輪間隔（b）※1	全周チェック							1 3
	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
	⑦							
	⑧							
受口端面～白線（黄線）間隔（a）	①							2 4
	③							
	⑤							
	⑦							
押しボルト	本数							4
	ﾄﾙｸ確認							
ライナの位置確認（d部）※2								5
マーキング（白線）位置の確認※3								
判定								—
備考								

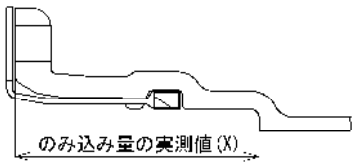
施工日		受注者名		現場代理人	
平成 年 月 日				配管工	

判定基準　※1　受口端面～ゴム輪間隔（b）が表に示す合格範囲内であること。また、曲げ接合してチェックゲージがゴム輪位置まで挿入できない場合は、チェックできなかったことを記載する。
※2　ライナが受口奥部に当たっていることを確認する。
※3　接合直後にマーキング（白線）位置が全周にわたり受口端面の位置にあるか確認する。

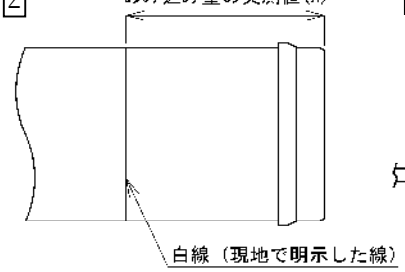
GX形 異形管・G-Link チェックシート（呼び径75～250）

工事件名			
呼び径		図面№	

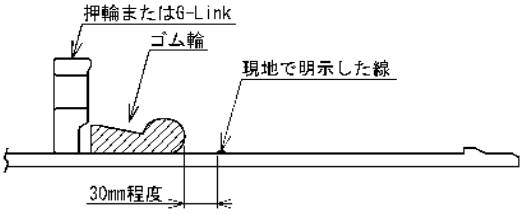
1



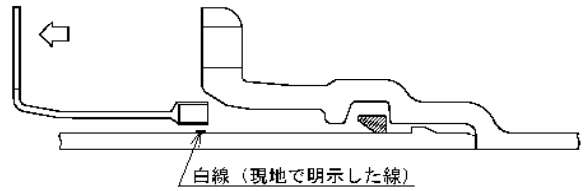
2



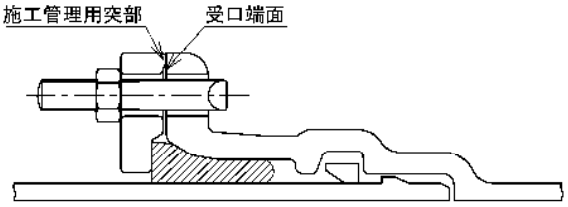
3



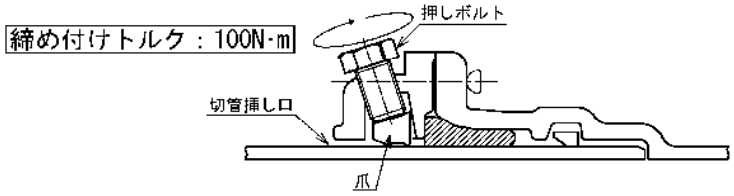
4



5



6 G-Linkを使用する場合



継手番号								—
略図								
挿し口突部の有無 注)								—
清掃								—
滑剤								—
挿し口の挿入量の明示								1 2
爪、押しボルトの確認(G-Link)								
ゴム輪、押輪またはG-Linkの確認								3
ストッパ、ロックリングの確認								4
T頭ボルト	本数							5
受口端面～施工管理用突部の隙間 ※	箇所数							
	隙間ゲージ確認							5
押しボルト	本数							6
	ﾄﾙｸ確認							
判定								—
備考								

施工日		受注者名		現場代理人	
平成 年 月 日				配管工	

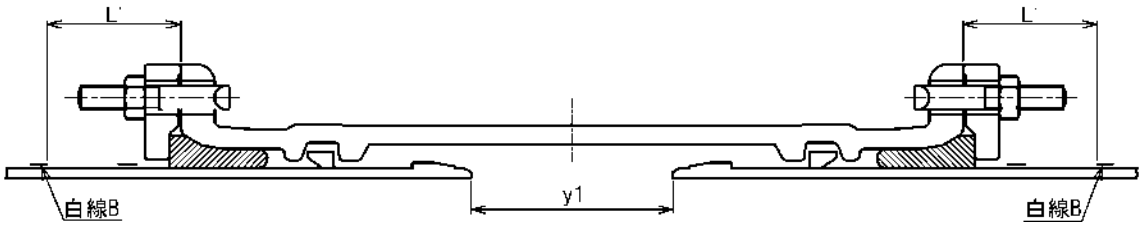
判定基準 ※ 受口端面と押輪又はG-Linkの施工管理用突部との間に0.5mm以上の隙間がないこと。

注) 挿し口突部の無い挿し口を異形管受口と接合する場合は、G-Linkを使用すること。

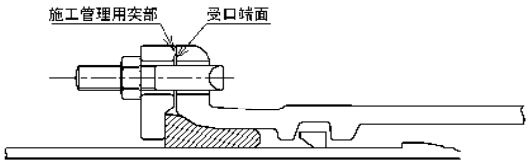
チェックシート

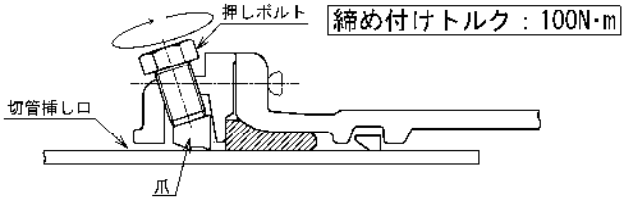
GX形 継ぎ輪 チェックシート（呼び径75～250）

工事件名			
呼び径		図面№	



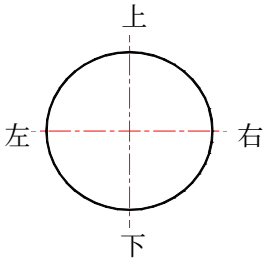
G-Link又は特殊押輪を使用する場合





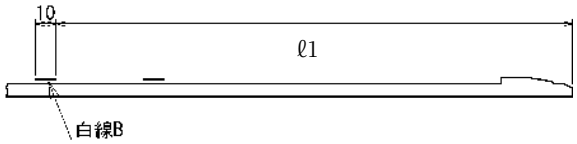
注:特殊押輪を使用するのは、挿し口突部がある場合のみ。

継手番号			
略図			
挿し口突部の有無 注1)			
清掃			
滑剤			
切管挿し口の白線Bの明示			
ゴム輪、押輪、特殊押輪又はG-Linkの確認			
爪、押しボルトの確認(G-Link)			
ストッパ、ロックリングの確認			
受口端面～白線の間隔（L'） 注2)	上		
	右		
	下		
	左		
両挿し口端の間隔(y1) 注2)	上		
	右		
	下		
	左		
T頭ボルト	本数		
受口端面～施工管理用突部の隙間 ※	箇所数		
	隙間ゲージ確認		
押しボルト	本数		
	トルク確認		
判定			



単位mm

呼び径	ℓ1
75	240
100	245
150	265
200	275
250	275



（i）一方から順次配管していく場合

単位mm

呼び径	L'
75	90
100	95
150	110
200	120
250	120

（ii）せめ配管の場合

単位mm

呼び径	y1
75	190
100	200
150	240
200	250
250	250

備考

せめ配管

施工日		受注者名		現場代理人	
平成 年 月 日				配管工	

判定基準 ※ 受口端面と押輪、特殊押輪又はG-Linkの施工管理用突部との間に0.5㎜以上の隙間がないこと。

注1) 挿し口突部の無い挿し口を異形管受口と接合する場合は、G-Linkを使用すること。

注2) 一方から順次配管していく場合にはL'寸法、せめ配管の場合はy1寸法を記入すること。

ＧＸ形継手チェックシートの記入要領

記　入　項　目	記　　入　　要　　領	留　意　事　項
略　　図	品名（直管、曲管、継ぎ輪、受切、両切、P-Link等）と記載例集の表示記号を記入する。	受口、挿し口の方向及びパイプ名、寸法を確認するため。
清　　掃	清掃完了でＯＫと記入する。	異物は全て取り除く。
受口溝の確認	ロックリング及びロックリングホルダが、所定の位置にセットしてあることを確認し、ＯＫと記入する。	
受口端面とゴム輪の間隔	チェックゲージを受口と挿し口の隙間全周に差込み、異常がないことを確認してから、入り込み量を測定し記入する。	１～８の測定値を記入する。 測定値が他の部分に比べて大きい場合は、接合をやり直す。
受口端面と 白線Ｂの間隔	受口端面と白線Ｂまでの間隔を測定し、記入する。 （70㎜～80㎜で管理）	接合後の胴付間隔を確認する。 特に曲げ配管には注意する。

施　工　数　量　集　計　表

平成　　年　月　日

工事件名及び工事番号	第　　号	施工部所
受　　注　　者	現場代理人	担当者名
検　査　種　別	完成・既済部分・中　間・確　認・打　切	

項目		図面№ / 形状	1	2	3	4	5	6	計	備考
管布設	新設	φ								
		φ								
		φ								
		φ								
		φ								
	撤去	φ								
		φ								
		φ								
		φ								
		φ								
	使用廃止	φ								
		φ								
		φ								
		φ								
		φ								
制水弁	新設	φ								
		φ								
		φ								
		φ								
		φ								
	撤去	φ								
		φ								
		φ								
		φ								
		φ								
消火栓	新設	単口								
	撤去	単口								
排水栓	新設	φ								
	撤去	φ								
区画量水器	新設	φ								
	撤去	φ								
空気弁	新設	単口								
		急速								玉押器対応型
	撤去	単口								
		双口								
連絡工										
管防護工										
残置サドル										

	管種 / 形状	NS	GX	NS	GX	NS	GX	NS	GX	NS	GX	NS	GX	計 NS	計 GX	写真 NS	写真 GX	不足 NS	不足 GX
ライナー	φ																		
	φ																		
	φ																		
	φ																		
	φ																		
挿口加工	φ																		
	φ																		
	φ																		
	φ																		
	φ																		

	種別 / 形状	G-Link	P-Link	G-Link	P-Link	G-Link	P-Link	G-Link	P-Link	G-Link	P-Link	G-Link	P-Link	計 G-Link	計 P-Link	写真 G-Link	写真 P-Link	不足 G-Link	不足 P-Link
接合部品（GX形）	φ																		
	φ																		
	φ																		
	φ																		
	φ																		

不足措置について
監督員の確認印　㊞

（注）1　この集計表は、検査を受ける前にあらかじめ記入し、検査員へ提出すること。
　　2　形状は、契約内容に基づいて記入すること。

新設管、撤去管及び既設管の口径、管種、仕切弁、メータ、分岐位置及び第一仕切弁のオフセット、メータ口径、お客さま番号等を記入する。

（ク） 工業用水道管布設路線又は下水再生水管布設路線の場合

(1) 布設路線の表示

現場状況に応じて、工業用水道管布設路線又は下水再生水管布設路線と図面の分かりやすい場所に記入する。

(2) 水質検査結果の表示

対象水の採取場所及び残留塩素濃度を記入する。

キ 立面図

（ア） 縮尺は考慮しなくてよい。

（イ） 必ず平面図の余白に収める。

（ウ） 原則として平面図の給水管表示の直近に表示する。ただし、直近に表示できない場合は、給水管ごとに索引番号を付け余白に表示する。

（エ） 配管の方向はなるべく同じ方向に向けて表示する。

（５） 給配水管の図示方法

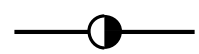
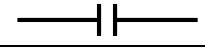
給水管取付替工事に関連する配水小管と給水管の配管形態を図示する。

ア 配水管の図示

（ア） 新設管・既設管の表示

配水小管 (新 設)	━━━━━━━━（実 線、太さ 0.6㎜）
〃 (既 設)	━ ・ ━ ・ ━ ・（一点鎖線、〃 0.6㎜）
〃 (撤 去)	━ ━ ━ ━ ・（破 線、太さ 0.6㎜）

（イ） 配水管の管種表示

鋳 鉄 管 (メカニカル)	F C A	消 火 栓	
ﾀﾞｸﾀｲﾙ鋳鉄管(メカニカル)	F C D A	制 水 弁	
ﾀﾞｸﾀｲﾙ鋳鉄管(タイトン)	F C D T	集 中 分 岐 管	
ﾀﾞｸﾀｲﾙ鋳鉄管(耐震用ＮＳ形)	ＦＣＤＮＳ	ﾀﾞｸﾀｲﾙ鋳鉄管(耐震用ＧＸ形)	ＦＣＤＧＸ

※ 内面粉体ダクタイル鋳鉄管については、継手表示部分を□で囲む。ただし、ＧＸ形は除く。（例 ＦＣＤ[ＮＳ]）

イ 給水管の図示

（ア） 新設管・既設管及び撤去管の表示

給水管 （新 設）	―――――――（実 線 、太さ 0.4㎜）
〃 （既 設）	- - - - - - - - - - - -（破 線 、太さ 0.4㎜）
〃 （撤 去）	―――――――（実 線 、太さ 0.1㎜）

（イ） 口径・管種の表示

給水管に引出し線を設け、引出し線内に口径及び管種を表示するほか、次の記号

第２　工事完成図作成要領

１　総　則

（１）この要領は、機械・電気設備工事の工事完成図届に添付する工事完成図について定めるものとする。

（２）工事の種類、規模等によりこの要領により難い場合は、監督員の指示する方法により作成することができる。

２　内　容

工事完成図は、各設備の機能が十分発揮できるように、かつ、運転及び管理が適正で安全に行えるように図面及び取扱事項を次の該当する項目をまとめ、製本すること。

（１）工事概要
（２）機器外形寸法図
（３）機器構造図
（４）機器据付配置図
（５）機器基礎図
（６）システム構成図
（７）制御方式
（８）配管系統図、経路図
（９）配線系統図、経路図
(10) 設計計算書（容量、強度等）
(11) 展開接続図、結線図
(12) 機器の詳細仕様、設置一覧表
(13) 試験成績表
(14) 試験証明書
(15) 取扱説明書、操作要領書
(16) 工事に関する許認可関係書類（写し）
(17) 添付品等一覧
(18) その他必要なもの

３　提出部数

工事完成図の提出部数は、原則として６部とする。

なお、部数を変更する場合は、監督員の指示によること。

４　製　本

（１）製本の大きさは、Ａ３又はＡ４版とする。
（２）工事完成図には、各冊ごとに全体の目次を入れること。
（３）工事完成図には、ページを入れること。
（４）主要項目ごとに色分けの中表紙を入れ、見出し(インデックス)表示を付けること。
（５）製本は、３又は４か所のネジ止め、又はパイプ式（両開き）ファイルの使用を原則とする。
なお、これによらない場合は、監督員の指示によること。